

# わが国工作機械産業の需給実績と見通し

[2025年1月10日発表・暦年ベース]

ニュースダイジェスト社「月刊生産財マーケティング」編集部

## 1. 受注

●昨2024年の受注総額は前年比1.8%減の1兆4600億円となったもよう。22年3月の月次受注額1663億円をピークに3年弱にわたって軟調が続いている。23年末前後で下降傾向にはブレーキがかかったものの、24年はほぼ一年を通じて底這いだった。内外需とも景気の不透明感が強く、とりわけ内需は自動車産業における投資控えの影響もあり、苦しい状況が続いている。外需は、大手企業による大型の投資案件が堅調で、24年の受注総額は1兆円を超えた。しかし、個々の工作機械メーカーにとっては、失注時のダメージの大きさ、受注時の負荷の分散や納期リスクなどが課題となっている。

●25年の受注総額は1兆7000億円と予想する。主要市場である米国では、トランプ政権による各種経済政策がプラスに働くと思われる。特に円安傾向の継続と原油価格の引き下げに期待できる。中国は、全体経済の本格回復は見通せないものの、政府の各種経済政策による底堅さが予想される。欧州は、ドイツを中心に厳しい状況ではあるものの、ロシアによるウクライナ侵攻が和平合意に至った場合の復興需要が期待される。自動車、半導体産業といった主要産業も、先延ばしになっていく設備投資計画が年央から年後半に向けて動き出すと期待される。

[日本工作機械工業会統計]

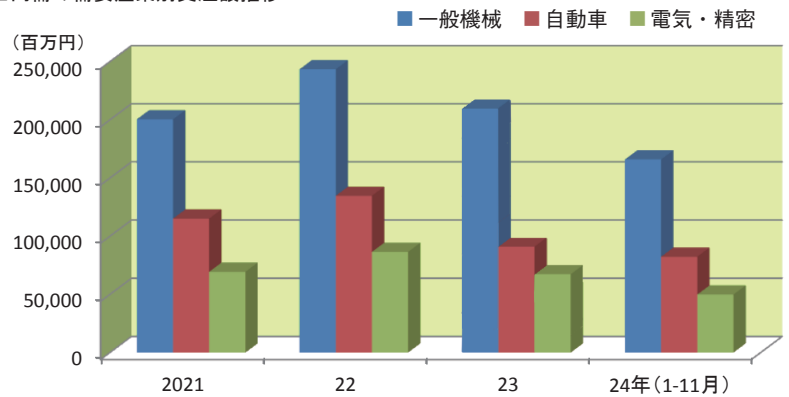
(単位:百万円、カッコ内は前年比増減率%)

◆暦年	2021年	2022年	2023年
受注総額	1,541,419 (+70.9)	1,759,601 (+14.2)	1,486,519 (-15.5)
内 需	510,324 (+57.3)	603,231 (+18.2)	476,821 (-21.0)
外 需	1,031,095 (+78.6)	1,156,370 (+12.1)	1,009,698 (-12.7)

◆暦年	2024年	2025年予想
受注総額	1,460,000 (-1.8)	1,700,000 (+16.4)
内 需	440,000 (-7.7)	550,000 (+25.0)
外 需	1,020,000 (+1.0)	1,150,000 (+12.7)

■内需の需要産業別受注額推移



## 2. 生産

●昨2024年の生産額は前年比14.4%減の9000億円となったもよう。受注環境が下降傾向から底這いへと移行するに従い、生産ペースも下方へと調整された。受注残は年間を通して7000~8000億円レンジを堅持しており、決して低い数字ではない。

●25年の生産額は同16.7%増の1兆500億円と予想する。受注環境は底這いからのスタートとなるが、米国政権の新体制を筆頭に、政治的なプラス要因、下支え要因は数多い。それぞれ劇的な回復を主導するものではないものの、受注の底堅さを担保すると期待される。

●近年、工作機械に搬送装置、検査機器、ソフトウェアなどを組み合わせた自動化システムの需要が高まっている。特に人件費が高騰している欧米を中心にこの傾向が強い。自動化システムには、多品種生産や中量産などにも対応できるフレキシビリティの高さが求められるケースも多く、日本やドイツなど工作機械先進国のメーカーに引き合いが集まる。しかし、工作機械メーカーにとっては売上高に占める購入品の比率が高まるため、手離れが悪くなるわりに利益率が低下しやすくなるなどの問題もある。

[経済産業省機械統計]

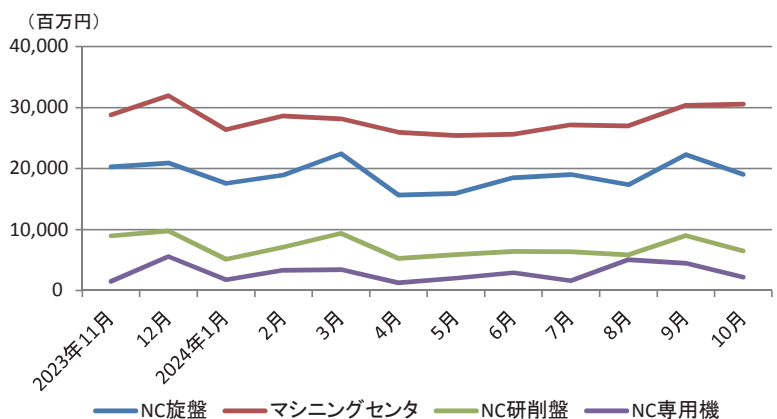
(単位:百万円・台、カッコ内は前年比増減率%)

◆暦年	2021年	2022年	2023年
金 額	895,409 (+23.7)	1,078,833 (+20.5)	1,051,791 (-2.5)
台 数	67,601 (+48.3)	70,004 (+3.6)	58,832 (-16.0)
・単価	13.2 (-17.0)	15.4 (+16.7)	17.9 (+16.2)

◆暦年	2024年	2025年予想
金 額	900,000 (-14.4)	1,050,000 (+16.7)
台 数	50,000 (-15.0)	60,000 (+20.0)
・単価	18.0 (+0.6)	17.5 (-2.8)

■機種別生産額推移



### 3. 輸出

●昨2024年の輸出額は前年比10.9%減の7400億円となった。工作機械市場は全世界的に足踏み感があるものの、円安が追い風となり、日系メーカーの受注環境は底堅かった。ただし、ドルベースで見ると外需の月次受注額はこの2年ほど5億ドル～6億ドルと不況期並みのレンジを歩き来している。全体に、大手企業や政府系の投資は堅調だが、中堅中小企業による投資が弱含みであった。バッテリー式電気自動車(BEV)は設備投資に積極的なメーカー数が絞られ、設備投資の総量には一服感が出た。半導体関連産業は、人工知能(AI)関連は活況だったものの、ロジック系・メモリ系とも投資が先延ばしされた。

●25年の輸出額は、同14.9%増の8500億円を見込む。世界全体の経済成長は若干のプラスにとどまるが、円安傾向は継続するとみられ、日系メーカーに有利な市場環境は続く。米国では、製造業をはじめとする各種産業の国内回帰が加速すると期待される。中国は不動産不況に端を発する全体経済の落ち込みが激しいものの、政府による経済施策の効果は大きい。インド、ASEAN諸国など新興国市場の勃興や巨大化、先進化も期待できる。

### 4. 輸入

●昨2024年の輸入額は前年比9.4%減の800億円となった。国内市場が低迷したのに加え、円安で価格競争力が相対的に低下したのを受け、輸入機市場は4年ぶりにマイナスに転じた。

●輸入機市場の主力機種は旋盤やレーザ加工機、研削盤、マシニングセンタ(MC)など。主力機種は研削盤を除き、軒並み振るわなかった。旋盤やMCは輸入台数と輸入額の両方で前年を下回った。一方、レーザ加工機は比較的安価な機種が中国から大量に輸入されたのを背景に輸入台数は増加したが、輸入額は前年を割った。

●25年の輸入額は800億円と、前年と同水準に落ち着きそうだ。国内市場は回復基調で推移するが、為替相場は円安傾向が長期化すると予想されるため、輸入機市場にとっては25年も引き続き厳しい環境となる。主力機種の輸入額は前年を下回るか、横ばいにとどまるとみられる。

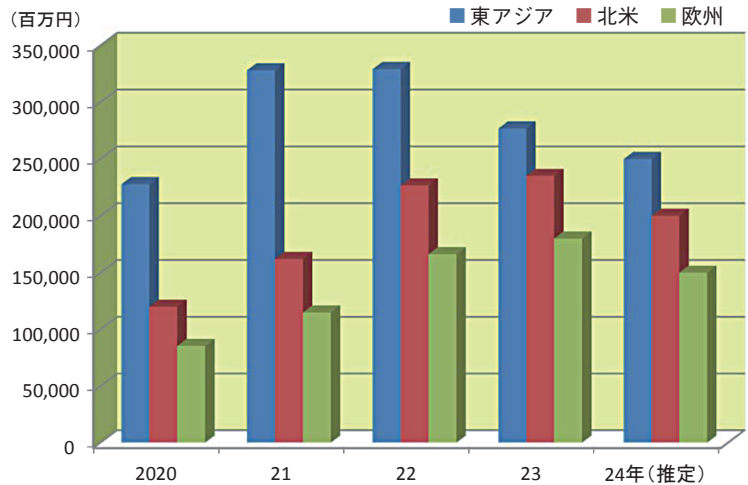
[財務省貿易統計]

(単位:百万円、カッコ内は前年比増減率%)

◆暦年	2021年	2022年	2023年
総金額	712,613 (+34.6)	857,072 (+20.3)	830,389 (-3.1)
・対東アジア	328,040 (+44.0)	329,068 (+0.3)	276,800 (-15.9)
・対北米	162,030 (+35.0)	226,672 (+39.9)	235,084 (+3.7)
・対欧州	114,984 (+34.6)	166,226 (+44.6)	179,972 (+8.3)

◆暦年	2024年	2025年予想
総金額	740,000 (-10.9)	850,000 (+14.9)
・対東アジア	250,000 (-9.7)	280,000 (+12.0)
・対北米	200,000 (-14.9)	230,000 (+15.0)
・対欧州	150,000 (-16.7)	150,000 (+0.0)

■主な市場別輸出額の推移



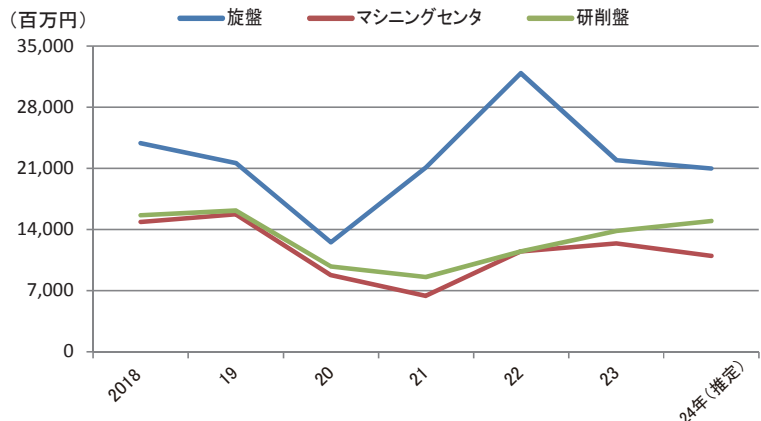
[財務省貿易統計]

(単位:百万円、カッコ内は前年比増減率%)

◆暦年	2021年	2022年	2023年
総金額	72,704 (+6.0)	87,282 (+20.1)	88,258 (+1.1)
・旋盤	21,119 (+68.4)	31,900 (+51.0)	21,964 (-31.1)
・MC	6,415 (-26.9)	11,508 (+79.4)	12,431 (+8.0)
・研削盤	8,565 (-12.5)	11,510 (+34.4)	13,835 (+20.2)

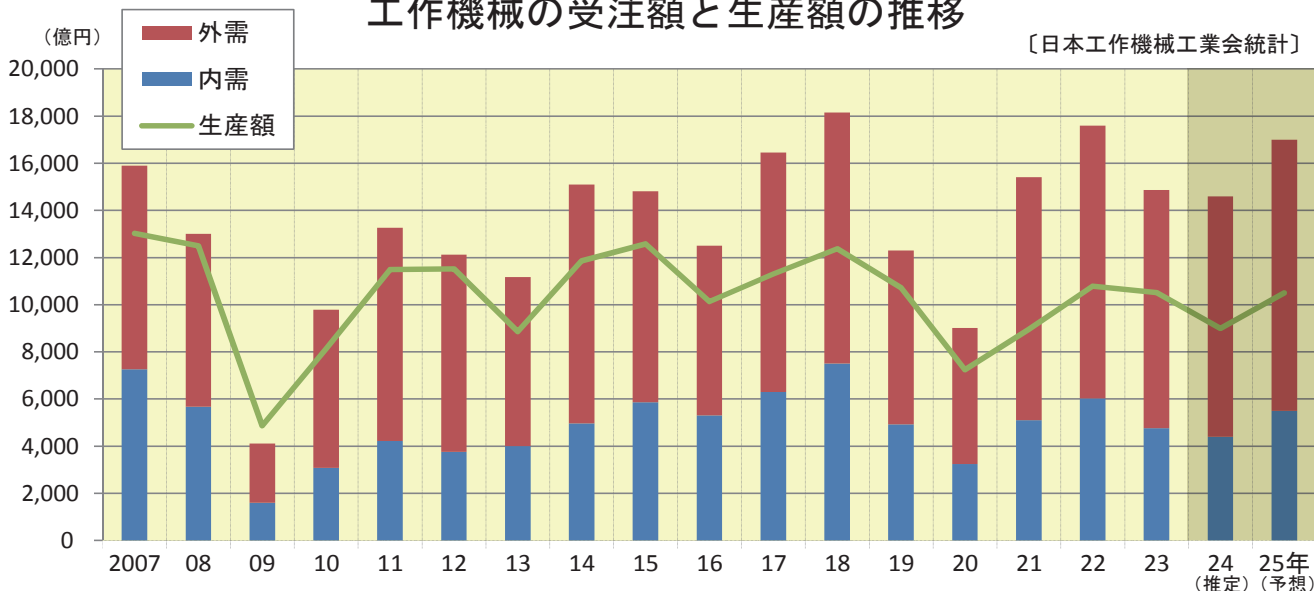
◆暦年	2024年	2025年予想
総金額	80,000 (-9.4)	80,000 (+0.0)
・旋盤	21,000 (-4.4)	20,000 (-4.8)
・MC	11,000 (-11.5)	11,000 (+0.0)
・研削盤	15,000 (+8.4)	14,000 (-6.7)

■機種別輸入額推移



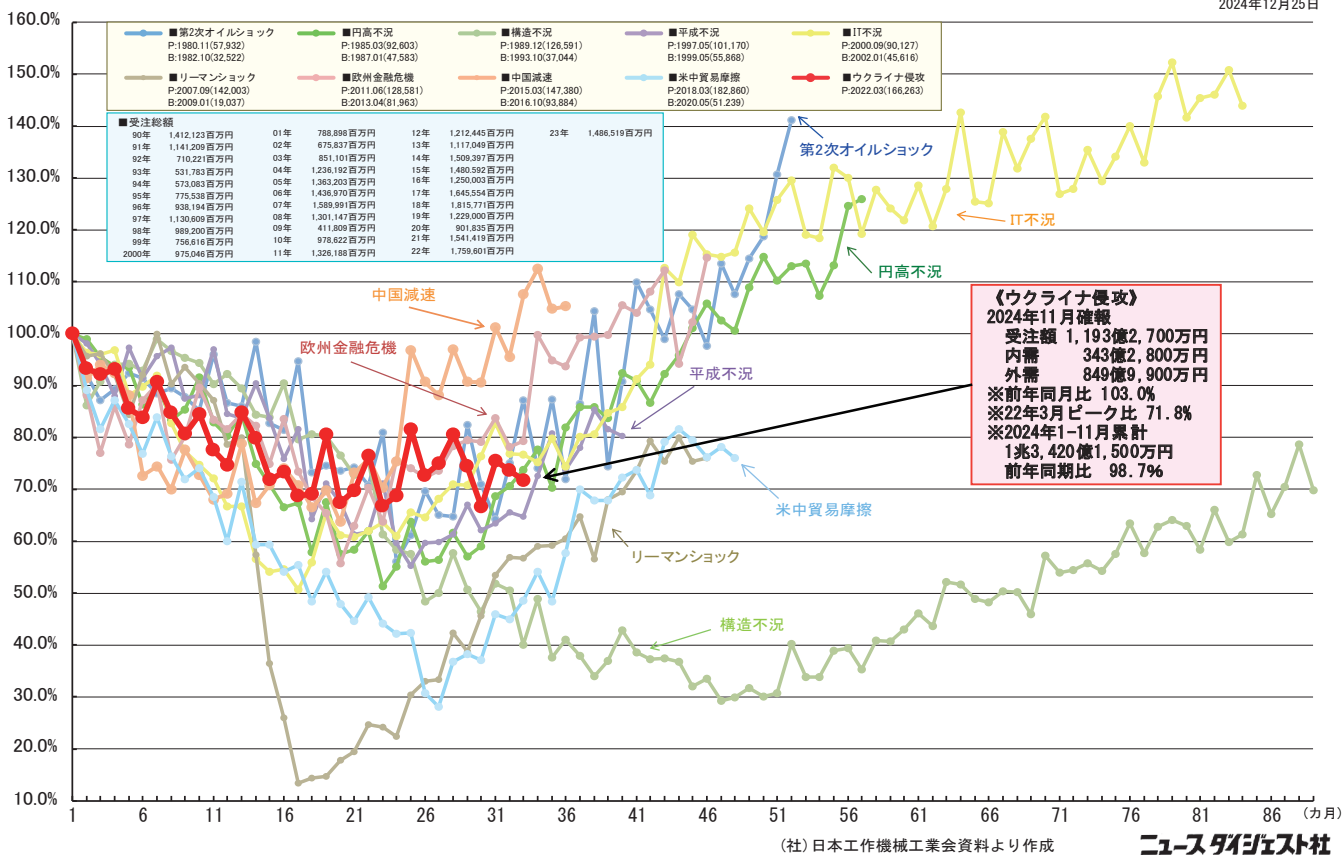
# 工作機械の受注額と生産額の推移

〔日本工作機械工業会統計〕



## 工作機械「内外需」受注グラフ 2024年11月（確報）

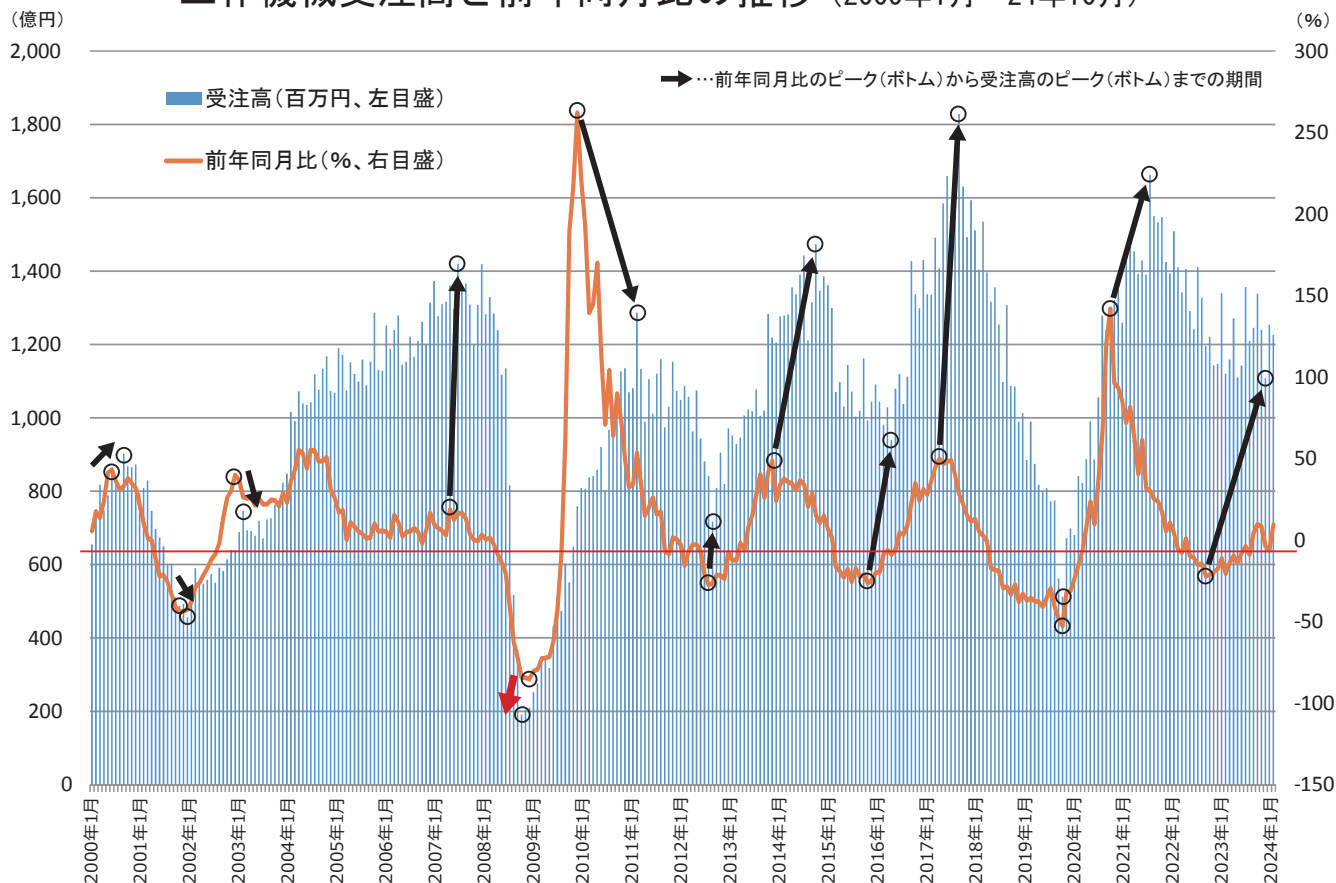
2024年12月25日



●グラフ(下)の見方：景気の頂点にあたる四半期の受注額を100の指数で表し、その後の景気後退と回復(谷と山)の期間と高低を示した

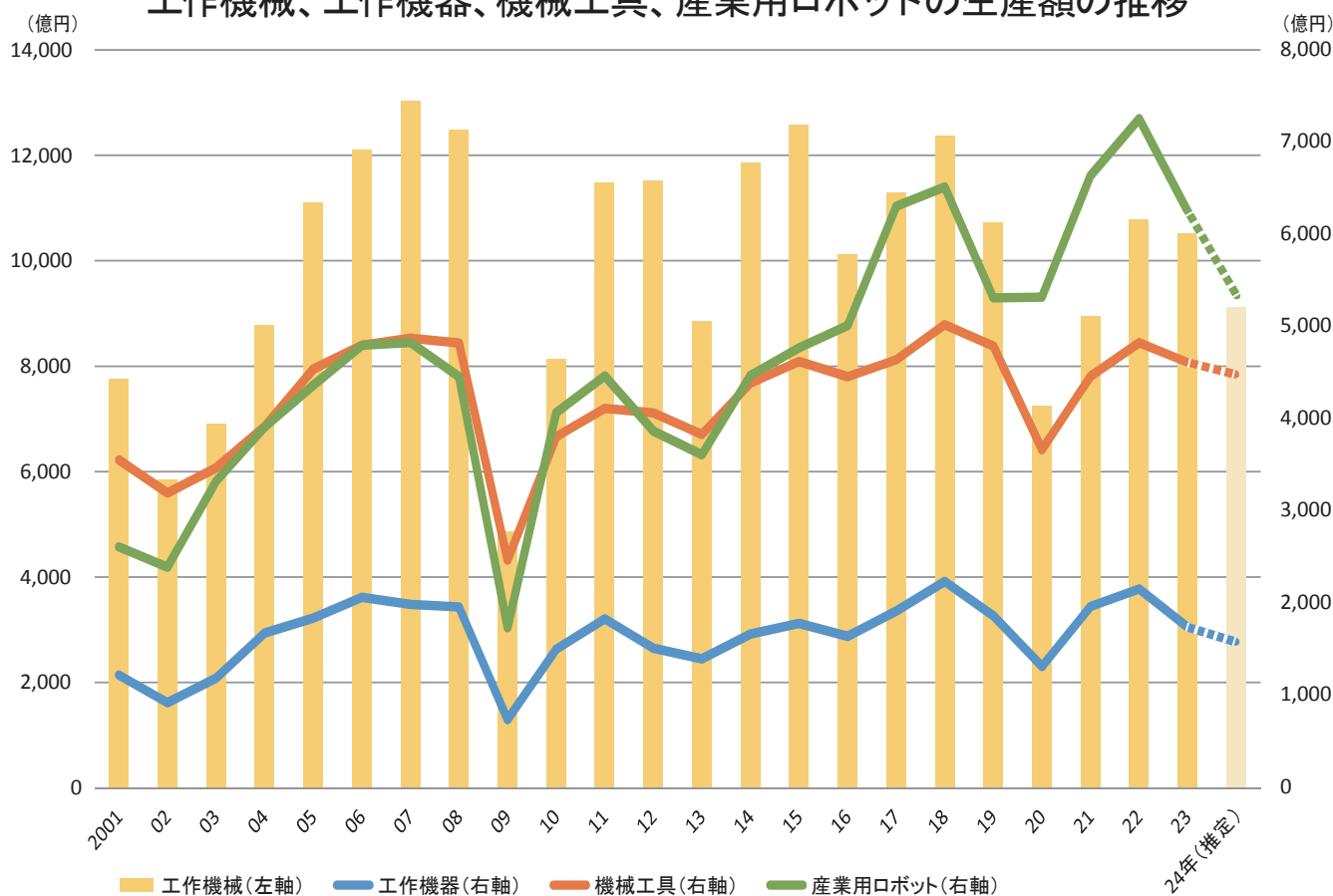
【グラフ説明】	頂点P	底点B	底点/頂点	P⇒B期間	B⇒次P期間
①第2次オイルショック不況	80年11月 (57,932)	82年10月 (32,522)	56.1%	24ヵ月間	18ヵ月間
②円高不況	85年03月 (92,603)	87年01月 (47,583)	51.4%	21ヵ月間	22ヵ月間
③構造不況	89年12月 (126,591)	93年10月 (37,044)	29.3%	42ヵ月間	43ヵ月間
④平成不況	97年05月 (101,170)	99年05月 (55,868)	52.2%	23ヵ月間	16ヵ月間
⑤IT不況	00年09月 (90,127)	02年01月 (45,616)	50.6%	14ヵ月間	55ヵ月間
⑥リーマンショック	07年09月 (142,003)	09年01月 (19,037)	13.4%	16ヵ月間	29ヵ月間
⑦欧州金融危機	11年06月 (128,581)	13年04月 (81,963)	63.7%	22ヵ月間	23ヵ月間
⑧中国減速	15年03月 (147,380)	16年10月 (93,884)	63.7%	20ヵ月間	17ヵ月間
⑨米中貿易摩擦	18年03月 (182,860)	20年05月 (51,239)	28.0%	26ヵ月間	22ヵ月間
⑩ウクライナ侵攻	22年03月 (166,263)				

## 工作機械受注高と前年同月比の推移 (2000年1月~24年10月)



出所：日本工作機械工業会

## 工作機械、工作機器、機械工具、産業用ロボットの生産額の推移



出所：経済産業省機械統計、日本工作機器工業会